

大阪有機化学工業株式会社	
2023年11月期 機関投資家向け決算説明会 質疑応答要旨	
日時	2024年1月12(金) 14:00~15:00
開催場所	野村インベスター・リレーションズ株式会社 (東京都中央区大手町2-2-2; 野村証券 アーバンネット大手町ビル) *電話会議システム使用
当社出席者	・代表取締役社長 安藤 昌幸 ・取締役 執行役員管理本部長 本田 宗一
参考資料	「2023年11月期 決算説明会資料」(2024年1月11日開示)

※この資料は、電話会議における質疑応答の要旨をまとめたものです。

【質疑応答要旨】

Q-1	電子材料事業のサブセグメントの四半期動向と、2024年の計画の内訳について
A-1	3Qから4Qの増減は、表示材料20%減、半導体材料13%減、その他は37%減。半導体材料のうち、ArF用は16%減、EUV用は12%増。 今期は、電子材料事業全体で13%増、内訳は、表示材料3%増、半導体材料20%増、その他10%減と予想している。 半導体材料は、EUV材料を中心に増えていくと予想している。
Q-2	EUV材料が市場の伸び以上に増えている要因と、EUV材料に求められる特性について
A-2	これまでのロジックに加え、DRAMでもEUVの適用される層が増えていることが大きいと思う。 EUVでスチレン系とあわせて、当社のアクリル材料が使われる背景は、感度などのレジスト性能をあわせこむために構造を変化させやすいところにあると思う。
Q-3	半導体材料の回復見通し
A-3	DRAMは在庫の解消が進んでいると聞いているが、当社は川上の材料なので、川下の回復基調とはずれがあり、当社の販売が回復するのは夏以降かとみている。 ただ、フラッシュメモリは、まだいい話を聞かないので回復にはもう少し時間がかかるとみている。 また、EUVに取って代わられてArFが減っていくということはないと思う。
Q-4	業績予想の半期の見通しと、営業利益率の方向感
A-4	電子材料の上期予想は、前年同期比で2%減、内訳は表示材料6%増、半導体材料は5%減、その他は±0。

	<p>営業利益の方向感は、化成品事業は若干プラス、電子材料事業は償却費の増加により利益率は低下、機能化学品事業は弱含み。</p> <p>夏くらいには需要の回復感が出てくると思うので、当社の新設備でも、認定生産を上期で終えて、下期から本生産に入れるのではないかと予想している。</p>
Q-5	<p>半導体材料の4Q実績が弱かったのは、レジストの需要が弱かったのか、レジストメーカーでレジスト原料の在庫調整があったのかどちらか？</p> <p>レジストメーカーの在庫水準は適正なところまで下がっているか？</p>
A-5	<p>レジストメーカーさんの在庫は当社では読みにくいですが、当社の販売からすると底打ち感はあると思う。</p>
Q-6	<p>中期経営計画の目標で、2026年度の営業利益率が14%以上となっているが、もう少し高くなるのでは。</p>
A-6	<p>戦略投資として、非石油化学系材料の開発や、DX、ITを含めた投資、将来の環境問題を考えた投資、また、既存事業での投資などを想定しているため営業利益率を14%以上としている。</p>
Q-7	<p>2023年の4Qで、電子材料事業の営業利益が3Qに比べて5~6億円減少している理由</p>
A-7	<p>売上げの減少、減価償却費の増加の影響が各4割、在庫評価減の影響が2割くらいになる。今期も1Qが営業利益的にはいちばん厳しいとみている。</p>
Q-8	<p>キャピタルアロケーションについて、自己株取得などの余裕はあるのか。</p>
A-8	<p>累積営業CF 600億円に加えて、保有資産の見直しやレバレッジを効かせた財務CFなどが入ってくるので、株主還元は可能とみている。</p>
Q-9	<p>半導体材料の技術動向について、High-NAになった場合、フォトレジストの感度向上が求められるが、その場合、アクリル系の材料には追い風になるのか。</p> <p>また、メタルレジストについてはどうか。</p>
A-9	<p>High-NAになっていくことや、そのために薄膜になっていく動向は間違いないと思っている。その中で濡れ性・残さ・感度などのバランスを取るような改良が進むことになる。そのためには、いっそうアクリル変性の需要が高まる可能性はあると思っている。ただ、当社で提供している製品が、High-NA用なのか従来のEUV用なのかは当社ではわかりにくい。</p> <p>メタルレジスト（MOR）については、いまのところ手を付けていない。</p> <p>フォーミュレーション系で感度を上げられれば良いと思う。</p> <p>最終的には品質管理が求められていると思うので、不純物低減などの品質管理をしっかりやっていきたい。</p>
Q-10	<p>業界再編について何か変化はあったか。</p>
A-10	<p>今のところ大きな動きはない。</p>

Q-11	化成品事業で、4Qに売上げが伸びているのに利益が横ばいの要因は。今期の売上水準はさらに上がるのか。
A-11	販管費の増加が大きく影響している。今期の化成品の売上げは前年比で8%増を見込んでいて、2023年の下期くらいのペースが続くと見込んでいる。
Q-12	機能化学品が振るわなかった理由は。
A-12	化粧品原料は前年比で9%増加、特殊溶剤は3%減と、大きく悪くなっているわけではない。機能材料グループの受託品が21%減と大きく減少しているのが減益になっている一番の要因。今期予想では、化粧品は微増、特殊溶剤は微減、機能材料は大幅減とみている。 中国の不買運動は、当社の化粧品原料には影響が出ていない。
Q-13	電子材料事業の表示材料の動向はどう見ているのか。中国スマホが動き出すという見方があるが影響はあるのか。
A-13	表示材料はしばらくステイだとみている。 中国スマホは当社の顧客とのつながりは薄いので、あまり影響はないとみている。

以上